

らくさい

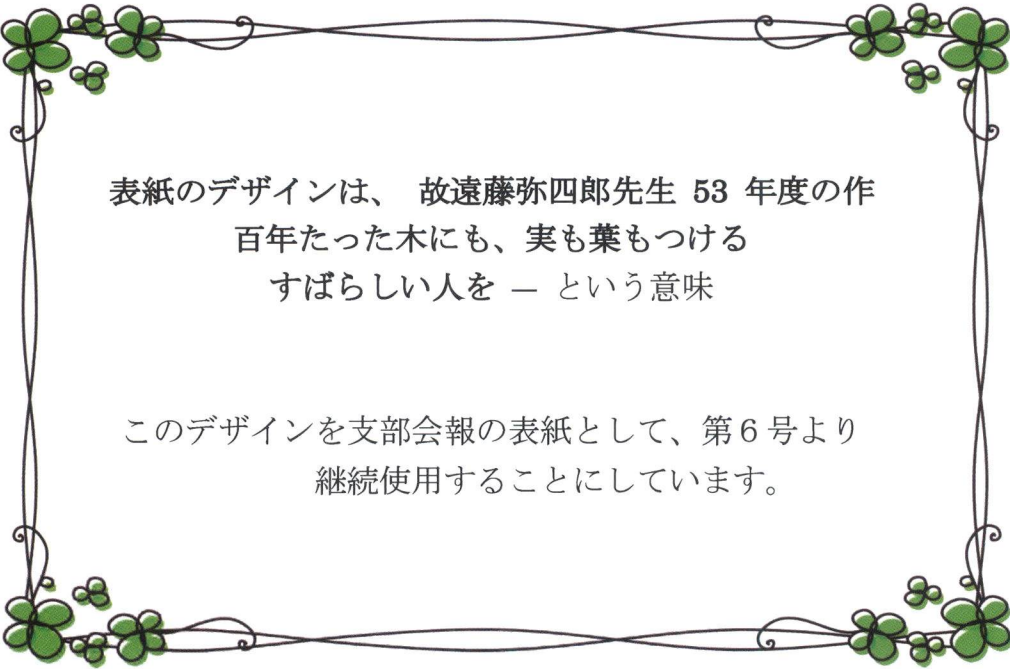
会誌 第39号

(2023 年度版)



社団法人

京都府教職員互助組合退職互助部右京支部



表紙のデザインは、故遠藤弥四郎先生 53 年度の作
百年たった木にも、実も葉もつける
すばらしい人を — という意味

このデザインを支部会報の表紙として、第 6 号より
継続使用することになっています。

目次

あいさつ

右京支部長	長谷川 富美子	2
専務理事	佐野 幸良	3

二〇二三年度右京支部総会報告	4
二〇二二年事業報告と二〇二三年度の計画	5
二〇二二年右京支部財政報告と二〇二三年度予算	6
二〇二三年度支部役員選出	8
二〇二三年度新入部員・異動部員	9
二〇二三年度部員数・戸数及び支部委員一覧・逝去された部員	10
右京支部運営規則	11
支部のあゆみ	12
支部役員としてお世話くださった方々	13

部員の声目次（色間紙）	15
部員の声	17

二〇二二年宇多野・鳴滝めぐり	42
あとがき	43

今年も「らくさい」三九号を発行することができました。皆様の暮らしや学び、発見や思いなどの寄稿文から退職されても様々な分野で活躍されたり楽しんでおられたりする様子がよくわかります。ご協力ありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症は「2類」から「5類」に引き下げられ以前の日常が戻りつつあります。休止していた集まりも復活し、アクリル板もなくなりました。マスク着用も「個人の意思」となり私としては嬉しい限りですが、また新規感染者が増えはじめ第9波の懸念が出てきました。インフルエンザなど他のウイルスも増えてきて感染対策はまだまだ手を緩めることができません。

皆様の生活はいかがでしょう。一昨年から続く物価の急激な値上げラッシュには驚くばかりです。電気料金・健康保険料・介護保険料に加え食品や日用品など三万品目以上に上る値上げで、私たちの生活はじりじりと圧迫されてきています。

七〇歳を過ぎると集まれば必ず病気の話でます。今年の七月に以前の職場の人たちと一緒に食事をした時も「こんな病気になった」「〇〇医院がいい」「この薬がよく効いた」などの話で盛り上がり健康に不安を抱えている人が多いなあと感じました。退職互助組合の医療費の補助を使って安心して医療機関にかかり健康を維持していけたらと思います。加えて退教互は社会的なつながりを持てる機会の一つです。支部の諸行事に参加して元氣や意欲をもらっていただきたいと思います。

今年もよろしく願います。

貴会誌「らくさい」第三九号の発行、おめでとうございます。組合員の交流の場として大きな役割を担っております貴会誌発行に尽力いただいた皆様方に、心より感謝申し上げます。

ウクライナでの戦争は、世界中に様々な影響を及ぼし、日本においても「新しい戦前」という言葉が話題となりました。また、国内外で起こる大地震や異常気象による被害のニュースを見ると、いつどこでも起こりうることであり、私たちが日々の生活を普通に過せる環境を保てるのがいかに大切かということを思い知らされた気がします。

新型コロナウイルスについては、五月からは感染症法上の五類へ変更され、コロナを特別視しない「withコロナ」の新たな時代が始まったとも言えます。とはいえ、今後も新たな変異株による大きな流行を繰り返すだろうし、いつ終息するかは依然不透明な状況です。互助組合におきましても、とりわけ高齢者など重症化リスクが高い方の感染を防ぐことをふまえ、感染が拡大したときの状況にも対応できるように、この間転換してきた非接触型・個別利用型の事業を継続・発展させつつ、従来の対面型やバス利用の事業についてもさらに工夫して拡大し、それぞれの長所を活かしたベストミックス事業を計画・実施していきたいと考えています。

退職互助を取り巻く社会情勢は、年々厳しさを増しています。国は、少子高齢化に伴う社会保障費の増加を理由に、後期高齢者の医療費窓口負担の二倍化にとどまらず、二〇二四年度から医療及び介護保険における負担能力に応じた負担と給付内容の見直しなどを実施しようとしています。社会保障制度の充実の課題は、国の政治の方向性が大きく関わる問題だけに、全教互の国会陳情署名行動などを通して私たち自身が声をあげていく以外にはないと思っています。

今年度は、互助組合事務局の管理部局体制を一新しました。これまで先輩方が大切にされてこられた互助の精神を引き継ぎつつ、組合員のニーズや社会の状況、時代の流れに合わせて変化させ、組合員から慕われる「シン・ゴスケ」にしていきたいと考えています。

最後になりましたが、活動を支えていただいております支部役員の皆様に御礼申し上げますとともに、会員の皆様のご健康と、支部活動の今後のますますのご発展を祈念し、貴会誌発行にあたってのごあいさつとします。

二〇二三年度 右京支部総会報告

六月一四日 嵐山「花のいえ」にて右京支部総会を開きました。新会員歓迎昼食会を含む総会は実に四年ぶりで五一名の出席がありました。会場いっぱいこの間、皆さんがいかに交流を待っておられたかと互助のつながりの深さを感じました。

最初に互助本部の増田博樹事務局長より互助組合を取り巻く状況について説明があり、その中には常勤の再任用職員を現職組合員の扱いにすることや再任用終了後に退職互助に加入できるなど制度設計の見直しなどの説明もありました。

議事の①から④（六月配布の議案書参照）まで委任状を含めた多数で可決・承認されました。議場からは「昨年より医療費補助金額の改訂がなされたがそれによる加入数の変化はあったか」の質問があり増田事務局長が「特に変化は見られない」と回答されました。

総会後は中村みゆきさんをはじめ三名の皆さんによる「ハープ演奏」があり心地よい音色に聴き入りました。

途中、中村さんの演奏に飛び入りで小さなハープで伴奏させてもらえる場面もあり盛り上がりました。終了後には自由に触ったり、音を奏でたりして「ハープ」に親しみました。

新会員はこの四年間で一〇六名おられました。昼食会には残念ながら今年の新会員は参加しておられませんでした。また様々なウィルスの感染対策が必要ということでもアルコール抜き自己紹介などもなしの交流会でしたが、お互い久しぶりということもあって、あちらこちらで話の花が咲きました。（記：長谷川）



2022 年度 (令和 4 年度) 右京支部事業報告

2022 年 5 月 1 日～ 2023 年 4 月 30 日



5 月 25 日 (水) …第 1 回役員会議	右京ふれあい会館
6 月 15 日 (水) …22 年度右京支部総会	花園会館
7 月 28 日 (水) …第 2 回役員会	右京ふれあい会館
8 月 24 日 (水) …第 3 回役員会・第 1 回校正会議	右京ふれあい会館
9 月 7 日 (水) ……第 4 回役員会・最終校正会議	右京ふれあい会館
10 月 19 日 (水) ……第 5 回役員会	右京ふれあい会館
10 月 15 日 (土) …「らくさい」配布 機関紙への封入	
11 月 5 日 (土) ……退職教職員のつどい	教育文化センター
12 月 8 日 (木) …ミニ行事①	宇多野・鳴滝散策
3 月 8 日 (水) ……第 6 回役員会	右京ふれあい会館
3 月 16 日 (木) …ミニ行事②「フラワーデザイン」	コープ嵯峨野
4 月 6 日 (木) ……2022 年度会計監査	長谷川 (支部長) 宅

2023 年度 (令和 5 年度) 右京支部事業計画

2023 年 5 月 1 日～ 2024 年 4 月 30 日



5 月 17 日 (水) ……第 1 回役員会議	右京ふれあい会館
6 月 14 日 (水) ……23 年度支部総会	嵐山「花のいえ」
7 月 27 日 (木) ……第 2 回役員会	右京ふれあい会館
8 月 23 日 (水) ……第 3 回役員会・第 1 回校正会議	右京ふれあい会館
9 月 6 日 (水) ……第 4 回役員会・最終校正会議	右京ふれあい会館
10 月 16 日 (月) ……「らくさい」配布	機関紙への封入
10 月 26 日 (木) ……秋の親睦旅行	(大阪・堺方面予定)
10 月 21 日 (土) ……退職教職員のつどい	教育文化センター
3 月上旬…『作品展』	サンサ右京 1F (予定)
4 月上旬…会計監査	場所 未定

2022年度（令和4年度）

退職互助部 右京支部財政報告書

2022年4月1日～2023年3月31日



収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
前年度繰越金	555,680	会誌発行費	101,580
支部運営補助金	500,000	総会・懇親会費	67,050
支部運営補助金（会誌）	98,767	支部事業費	99,151
総会・懇親会参加費	0	役員会・会場費	67,540
支部事業参加費	10,000	旅費・交通費	4,500
利息収入	7	印刷・通信費	99,711
雑収入（広告費）		雑費（お茶、文房具など）	19,794
		収支差額（未執行分） （次年度繰越金）	149,448 555,680
合計	1,164,454	合計	1,164,454

以上の通り報告します。

2023年3月31日

財政担当幹事 平田 美佐子 ㊞

◎2022年度、会計監査報告

2023年4月6日、2022年度の会計の執行状況を監査いたしましたので報告します。収支状況、会計帳簿等の記録、処理等は適切に管理されています。

退教互右京支部会計監査委員 永武 正子 ㊞

同上

川村 純子 ㊞

2023年度（令和5年度）

退職互助部 右京支部財政予算（案）

2023年4月1日～2024年3月31日

収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
前年度繰越金	555,680	会誌発行費	278,400
*1 支部運営補助金	816,960	総会費	250,000
*2 支部運営補助金（会誌）	278,400	支部事業費	450,000
*3 総会・懇親会参加費	80,000	役員会・会場費	150,000
*4 支部事業参加費	160,000	印刷・通信費	220,000
		予備費	542,640
合計	1,891,040	合計	1,891,040

◆収入内訳

*1 支部運営補助金	①支部当たり基本額	72,000
	②部員数	$768 \times @970 = 744,960$
	計	<u>816,960</u>
*2 支部運営補助金 （支部会誌）	①支部当たり基本額	48,000
	②部員数	$768 \times @300 = 230,400$
	計	<u>278,400</u>
*3 総会・親睦会参加費	参加数	$40 \times @2,000 = \underline{80,000}$
*4 支部事業参加費	参加数	$40 \times @4,000 = \underline{160,000}$

* 予算人数には、新入部員数は入っていません。

支部役員の選出

右京支部運営規則第4条

・支部役員の選任は、次の要領によって定めることを原則とする。

1. 支部長は、細則による支部役員が役員選考委員会を構成して適当な候補者を選考し、支部総会で選任する。
2. 支部長以外の支部役員は、支部長の委嘱による。

(上記の支部長の任期は、原則 3 年とする)

右京支部役員

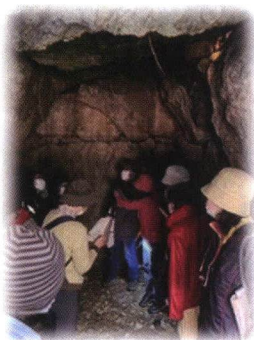
役職	氏名	役職	氏名
支部長	長谷川富美子	幹事	山口いづみ
副支部長	高間菊代	幹事	松本朗
副支部長	甲斐田健一郎	幹事	佐藤寛子
幹事(会計)	平田美佐子	幹事	生石文代
幹事	小村和加子	幹事	吉田吉彦
会計監査	永武正子	会計監査	川村純子

総会代議員選出支部選挙管理委員

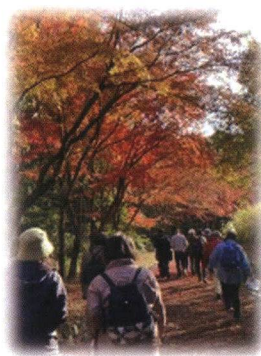
西條昭男	嵯峨
------	----

通信員・モニター

通信員	山口いづみ
モニター	高間菊代



上左：23 年支部総会
 上右：支部懇親会
 下左：玄室探査
 下右：広沢散策



2023 年度（令和 5 年度） 新入部員名簿

2023 年 5 月 31 日現在

No.	組	氏名	最終勤務校	No.	組	氏名	最終勤務校
1	13B	大滝 みゆき	修学院第二	11	2A	重田 耕成	洛西中
2	12B	小林 博文	吉祥院小	12	14B	蒲田 悟	伏見中
3	13A	後藤 靖	花菖小	13	14B	蒲田 京子	
4	14A	平井 みどり	桂小	14	10	山添 均	城南菱創高
5	2A	濱田 昌一	御蔵山小	15	7	中西 信充	山城高
6	1B	岸本 繁章	千代川小	16	7	中西 仁美	
7	1B	岸本 尚子		17	4	小崎 文恵	桂高
8	2A	北屋 雅章	銅駝美工高	18	14B	小林 秀昭	長岡第三中
9	15B	西畑 尚	西ノ京中	19	7	河野 泰治	紫野高
10	15B	西畑 知子					

（敬称略）

2022 年度（令和 4 年度） 異動部員（2022 年 6 月～2023 年 5 月）

転出

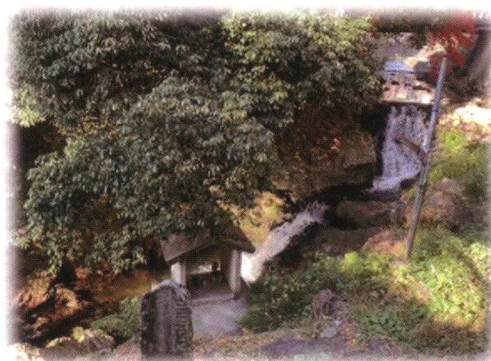
No.	組	氏名	転出先
1	12A	松本 高宣	滋賀県

（敬称略）

転入

No.	組	氏名	転入元
1	12A	伊藤 文子	西京
2	14B	河本 郁子	下京
3	12A	大木 健弘	宇治東

（敬称略）



2023 年度（令和 5 年度） 部員数・戸数及び支部委員一覧

2023 年 5 月 1 日現在

組	部員数	戸数	支部委員	組	部員数	戸数	支部委員
1A	20	15	(未定)	12A	22	18	倉田 厚子
1B	27	23	(未定)	12B	34	26	馬場 月美
2A	41	35	中村 弘子	12C	22	20	清水 育子
2B	29	25	(未定)	13A	29	23	谷口 カヲル
3	25	20	九里 徳江	13B	43	35	山口 いづみ
4	22	18	審良 美佐紀	14A	25	21	(未定)
5	22	19	伊原 康臣	14B	31	26	甲斐田 健一郎
6	40	28	村田 明子	14C	17	15	道本 なおみ
7	30	19	田中 健	15A	27	23	高間 菊代
8	28	20	小宮山繁	15B	37	29	熊谷 知恵子
9A	16	14	馬場 満恵	15C	18	16	中泉 千恵子
9B	13	11	小村 和加子	16	36	29	佐々木百合子
10	22	18	小椋 義一	17A	15	11	内田 光俊
11A	22	17	高田 泰子	17B	39	29	吉田 吉彦
11B	28	21	竹花 真弓	合計	784	626	

(敬称略)

2022 年度（令和 4 年度） 逝去された部員



謹んでご冥福をお祈り申し上げます (2022 年 6 月～2023 年 5 月：届出日)

No	組	氏名	年月日	No	組	氏名	年月日
1	9A	荒川 まさ子	R3.7.26	12	1B	和田 文夫	R4.11.18
2	15C	山口 忠夫	R4.4.16	13	17B	小島 和光	R4.11.23
3	10	間宮 正子	R4.5.15	14	7	大塚 ナホ	R4.12.8
4	12C	安原 誠子	R4.5.29	15	14C	横井 滋明	R4.12.20
5	9A	上垣 澄子	R4.7.1	16	2B	辻本 武男	R5.1.5
6	13A	吉村 龍幸	R4.7.18	17	13B	齊藤 清美	R5.2.3
7	5	川井 戒本	R4.8.13	18	8	富永 道子	R5.2.18
8	16	根垣 鎌子	R4.9.20	19	17B	山田 愛子	R5.3.15
9	9B	三宅 安男	R4.9.22	20	12A	杉原 徳子	R5.4.10
10	14B	辻 正子	R4.10.20	21	11B	清水 登美子	R4.12.4
11	14A	吉田 勤	R4.10.26				

(敬称略)

京都府教職員互助組合退職互助部 右京支部運営規則

(目 的)

第1条 この規則は、社団法人京都府教職員互助組合退職互助部員に関する細則(以下細則という)および社団法人京都府教職員互助組合退職互助部員支部運営規則(以下規則という)によって行う右京支部の運営を、より適切にするために定めたものである。

(編 成)

第2条 1. 本支部は、京都府退職教職員互助組合部員で京都市右京区内(但し京北地区を除く)に在住する者で編成し、支部内をいくつかの組に区分し運営する。組は、戸数の増減により分割または統合することができるものとする。

2. 各組には、組内部員の互助連絡の中心となる支部委員(支部世話係)をおく。

(役員及び任務)

第3条 この支部には次の役員を置く。

- (1) 支部長 1名
- (2) 副支部長 2名
- (3) 幹事 若干名(内1名は会計)
- (4) 会計監査 2名
- (5) 支部委員 各組1名

第4条 支部役員の選任は、次の要領によって定めることを原則とする。

1. 支部長は、細則による支部役員が、役員候補者選考委員会を構成して適当な候補者を選考し、支部総会で選任する。

2. 支部長以外の支部役員及び支部委員は、支部長の委嘱による。

(上記の支部長の任期は、原則3年とする)

(顧 問)

第5条 支部には顧問を置くことができる。

1. 顧問は支部長の委嘱によって定め、任期は委嘱した支部長の在任期間を原則とする。

(事 業)

第6条 支部は支部員の親睦と交流、福祉の増進を図るために次の事業を行う。

- 1. 年1回以上の総会
- 2. 年1回以上の懇親会
- 3. 健康講座、観劇、その他本部及び支部で企画する事業

(総 会)

第7条 1. 総会は年1回以上開催する

2. 総会に付属する事項は、次の通りとする。

- (1) 事業報告及び収支決算
- (2) 事業計画及び収支の予算
- (3) 支部役員の選出及び承認
- (4) 本部総会代議員の選出
- (5) その他支部運営に必要な事項

3. 総会は支部長が招集する。

4. 総会は総会出席者と委任状によって成立するものとする。

(財 源)

第8条 支部の事業に必要な経費は、本部からの補助金及びその他の収入による。

(会計年度)

第9条 支部の会計年度は4月1日から翌年3月31日までとする。

(施 行)

第10条 この規則は、2007年6月23日から実施する。

付 則

この規則の改正については、総会において了解を得ること。

支部のあゆみ

年度 (らくさい号数)	会員数	総会月日	総会場所	秋の行楽場所
2008 (24)	503	6・11	コミュニティ嵯峨野	淡路島
2009 (25)	516	6・13	マリアージュ京都	紀三井寺・養翠園・和歌山城
2010 (26)	554	6・19	マリアージュ京都	福井県恐竜博物館・朝倉遺跡
2011 (27)	580	6・22	花のいえ	湖北賤ヶ岳方面
2012 (28)	597	6・16	花のいえ・時雨殿	綾部・美山方面
2013 (29)	615	6・7	嵐山・福家	大阪・繁昌亭
2014 (30)	638	6・6	花のいえ	神戸動物王国ランチクルーズ
2015 (31)	648	6・13	花のいえ	近江八幡水郷めぐり
2016 (32)	682	6・4	花のいえ	平等院・花やしき・萬福寺
2017 (33)	705	6・14	花のいえ	繁昌亭・大阪歴史博物館
2018 (34)	741	6・12	花のいえ	舞鶴引揚記念館
2019 (35)	776	6・12	花のいえ	大阪池田
2020 (36)	767		中止	中止
2021 (37)	782		中止	中止
2022 (38)	783	6・15	花園会館	中止
2023 (39)	784	6・14	花のいえ	大阪堺方面

* 2007 年に中京・右京が分離独立しました

支部役員としてお世話くださった方々

氏名	役職歴	在任期間
住本 玄三	初代支部長	昭和 46～昭和 48
加藤 幸三郎	副支部長・2 代目支部長	昭和 46～昭和 48・昭和 49
小川 忠夫	3 代目支部長	昭和 50～昭和 53
遠藤 弥四郎	副支部長	昭和 49～昭和 53
中川 キサ	副支部長	昭和 50～昭和 53
松村 礼子	幹事	昭和 49～昭和 53
佐々木ふじえ	幹事	昭和 49～昭和 53
山本 田鶴子	幹事	昭和 49～昭和 53
佐藤 ふさへ	幹事	昭和 49～昭和 53
佐藤 房子	幹事	昭和 50～昭和 56
中島 綾	幹事	昭和 50～昭和 56
畑 益次郎	4 代目支部長	昭和 54～昭和 56
岩泉 幸雄	副支部長	昭和 54～昭和 56
黒沢 孝子	会計	昭和 54～昭和 56
津田 和子	幹事	昭和 54～昭和 56
原田 とみゑ	幹事	昭和 54～昭和 56
加藤 三治子	幹事	昭和 54～昭和 56
佐藤 たづ	幹事	昭和 56～昭和 59
阿形 史郎	副支部長	昭和 59～昭和 60
鎌田 雅啓	5 代目支部長	昭和 57～昭和 61
磨野 久一	副支部長	昭和 57～昭和 61
山田 千代子	会計	昭和 57～昭和 61
歌 千代	幹事	昭和 57～昭和 61
安田 久枝	幹事	昭和 57～昭和 61
吉見 淑子	幹事	昭和 57～平成元
伊藤 俊子	幹事	昭和 62～平成元
川高 明	副支部長	昭和 62～平成元
西崙 和子	会計	昭和 62～平成 2
橋井 盛夫	副支部長・6 代目支部長	昭和 61・昭和 62～平成 2
西本 逸男	副支部長	平成 2 ～平成 4

宇古 一榮	幹事	昭和 62～平成 7
森口 政一	副支部長	平成 4～平成 7
池田 輝也	幹事	平成 4～平成 7
四ノ宮典雄	会計監査	平成 9～平成 12
小林 弥寿雄	会計監査	平成 9～平成 12
松田 順子	幹事	平成 8～平成 12
石川 欣一	副支部長・7 代目支部長	平成 2・平成 3～平成 15
清水 忠信	副支部長	平成 8～平成 16
西尾 陽子	会計	平成 2～平成 17
神田 千之	幹事	平成 8～平成 17
上垣 澄子	幹事	平成 2～平成 18
山内 晃	副支部長・8 代目支部長	平成 6～平成 15・平成 16～平成 18
田中 勉	幹事・副支部長・9 代目支部長	平成 8～平成 18・平成 19～平成 21
山内 美和子	幹事	平成 18～平成 21
藤本 恵美子	幹事	平成 21～平成 27
内田 光俊	幹事・10 代目支部長	平成 18～平成 21・平成 22～平成 25
吉田 吉彦	11 代目支部長	平成 25～平成 27
東 静樹	幹事	平成 22～平成 25
甲斐田健一郎	12 代目支部長・副支部長	平成 27～平成 29
永武 正子	幹事	平成 17～平成 26
永井 謙治	会計監査	平成 17～平成 29
竹花 真弓	幹事	平成 23～平成 31
九里 昌治	副支部長・13 代目支部長	平成 29～令和元
道本 なおみ	幹事	平成 25～令和元

(敬称略)

◆目次◆

部員の声

私の子ども時代と遊び・・・・・・・・・・	道本　なおみ	22
来たれマイサロンお気軽に・・・・・・・・	九里昌治・徳江	24
近　況・・・・・・・・・・	吉川浩一郎・祥子	24
哀しい目の子どもたち・・・・・・・・・・	西條　昭男	17
近　況・・・・・・・・・・	宮川　澄子	18
雑　感・・・・・・・・・・	堀江　満智	25
近　況・・・・・・・・・・	太田　由枝	19
此の頃・・・・・・・・・・	下重　文子	25
ピアノレッスン・・・・・・・・・・	小村　和加子	19
外国人観光客と関わって・・・・・・・・	松本　朗	25
近　況・・・・・・・・・・	田中　礼子	19
セカンドステージの楽しみ・・・・・・・・	中泉　千恵子	26
近　況・・・・・・・・・・	永田　紀彦	20
友・・・・・・・・・・	山口　いづみ	27
「友だちのうちはどこ？」・・・・・・・・	倉田　厚子	20
近　況・・・・・・・・・・	近　況・・・・・・・・・・	27
佐藤　寛子		
家庭菜園4年目・・・・・・・・・・	大久保　芳人	22
近　況・・・・・・・・・・	村山　郁子	28
戦後から戦前へ・・・・・・・・・・	平田　美佐子	28
近　況・・・・・・・・・・	小宮山邦枝	22
嬉しい春（近況）・・・・・・・・・・	中川　壽弘	30
近　況・・・・・・・・・・	三野　真樹子	22

やつと!!	夏川 久子	30
川柳	辻 貞子	32
78年目の夏に思う	堀 信子	31
近 況	中村 弘子	32
コロナ禍を振り返る	長谷川富美子	32
近 況	岡 成子	32
近 況	中村 隆	34
かわいいひ孫と同級生	西田 光司	34
後期高齢者保健の見直しを糾す	佐々 満郎	34
近況川柳	藤本 てる子	35
ちよつと待て!	甲斐田 清美	36

作 品

近況雑記	
くコロナ禍のトンネルは抜けたのかな?・佐々木 俊郎	37
この十一年を振り返って・甲斐田健一郎	40
水彩画	川上 善雄
銅版画 (みずぬるむ日)・甲斐田 清美	41



部員の声

哀しい目の子どもたち

西條 昭男

「『かけら』たちの家―ウクライナ子どもシエルターの9カ月」(BS世界のドキュメンタリー)が放映されました。あまりにも重たく切ない映像。子どもたちの哀しい目が胸を刺します。

ドキュメンタリー冒頭の字幕。「2014年以降 ウクライナ東部では武力衝突が続いた 社会は疲弊 市民の生活は苦しくなり 多くの家庭が崩壊 『かけら』のように散らばっていった ウクライナ東部 リシチャンシク 前線から20^キ」

ウクライナでは、苦しかった生活がよけい苦しくなり、親の暴力、アルコール依存症などで、10軒のうち1軒が家庭崩壊したといえます。家におれなくなった子どもらを一時避難させ収容する子どもシエルター。だがそこには9か月しかおれない。その間に事態が好転しない場合は、養護施設へおくられるか、里親に引き取られるのだという。



幼い子から中学生ぐらいの子まで、先生(ソーシャルワーカー)が世話をします。

コーリヤ(11〜12歳の男の子)をカメラが映します。コーリヤは弟と幼い妹(3歳ぐらい)と3人で入所している。弟妹を可愛がり、よく世話する優しいお兄ちゃんだが、先生には反抗的です。心を閉ざしイライラしています。母親はアルコール依存、酒の匂いをさせて一度会いに来ました。家に帰りたいコーリヤは涙ながらに母親にせつない思いを伝えます。だがそれっきり母親はこない。音信不通。コーリヤは所内の年上の友だちと煙草をおぼえ、盗みもします。腕には自傷行為の傷跡。

やがてコーリヤは養護施設に送られます。幼い妹を無言で抱きしめた後、弟と妹を置いてシエルターを去っていくコーリヤの哀しい目。

サーシャ(6〜7歳の女の子)にもカメラは寄り添います。目鼻立ちの整った可愛い女の子ですが、母親はアルコール依存症。会いにも来ない。もう、わたしのことは忘れているんだよとサーシャは言い放ちます。寂しいサーシャは入所仲間のアリーナに親友になってほしいと頼む。「いいよ」とこたえるアリーナ。二人はいっしょに遊びます。

寂しい二人はまるで針で相手をチクチク刺すようにしてじゃれ合います。地雷の上で遊んでいるような危なっかしい

二人の様子。突然突き飛ばす、つかみ合う、悪口、イジワル、相手を探るような眼。そして肩を組んで大声で笑う。それが二人の友だちの形なのです。ある日アリーナは里親にもらわれていきます。哀しい目のサーシャ。黙って下を向いているサーシャにアリーナが近づき、二人は長い間抱き合って別れます。

サーシャは一人になります。そのサーシャにも里親の話がきます。先生は、里親との対面室であなただけの意思で決めなさいと言って席を外します。

サーシャは受け入れて部屋から出てきます。硬い表情のサーシャ。彼女を待っている未知の生活に希望の灯がともるようにねがいます。どんなに小さい灯でもいいから、けし粒ほどもいいから。

ドキュメントは終末をむかえ、子どもシエルターの電話が鳴ります。先生が受話器をとる。受話器から声が聞こえてきます。

「もしもし、新しい子ども一人、入所できますか」



戦争で痛みつけられて家庭が崩壊し、“かけら”のように散らばった哀しい目の子どもたちに灰色の未来がまっています。

その責任を誰がとるというのか。
戦争への道を先導したお偉方（戦争指導者たち）は責任をとるか。誰もとらない。いつの時代も、どの戦争でも。

近況

宮川 澄子

梅雨に入りました。田圃の田植えも終わりました。柳の葉が輝いています。

私が仏壇でお経を唱えようと、曾孫子二人は仮名付きの経を読みます。

私は転倒しない様に気を付けながら、押し車で歩きます。

週2回デイサービスやショー

トステイに行ってお世話になっています。

娘の家庭に安全に守ってもらって幸せです。

朝のテレビ体操で体を鍛えています。

合掌



近況

太田 由枝

一年前に発症した四十肩は、専門病院でのリハビリを半年続けてどうか日常生活に支障のないところまで回復しました。それを機に、運動不足は大敵と反省し、山歩きに出かけるようになりました。続けるには仲間を見つけるのが大切だと思い、好きそうな人に声をかけると、けっこういらつしやる！がつつり登山系から、京都トレイル仲間、近場ウォーキング友達と、いろいろなユニットができ、楽しく続けられています。ちよつとそこに行くのでも車に乗っていた身からすると大変身です。ありがとう、四十肩！

ピアノレッスン

小村 和加子

ピアノを習い始めて七年が経った。子どもの頃少し習ったので、まるつきり初心者というわけではないが、ほぼ初心者といつていい。頭を使い指を動かすということは、ボケ防止になるかなと思った。歌の伴奏もできたらいいなと思った。それなのにレッスンをやめたくなった。練習曲が難しくなつて、全く楽しいと思えなくなつてしまったのである。他の楽しい楽曲を先生に教えてもらつたりして弾いてみても楽

しくないのである。つまり自分の思うようにきれいに弾けないのである。つくづく自分は音楽音痴だと思い知らされた。歌の伴奏なんて到底無理ということもわかった。夫からは孫のためにも絶対やめるなと言われた。

三ヶ月位やめようか続けようか悩んだが、レッスンを続けることにした。初心にかえつてボケ防止のため、少しでも上手に弾けるようになるうという気持ちになれたからである。短い時間でも練習するようになった。そうすると少しだが弾けるようになり、曲の楽しさも味わえるようになってきた。人の意見で動くのは嫌いだが、絶対にやめるなという夫の言葉でやめることを押しとどめられた部分もあると思う。でもいつまたやめようという気持ちになるかわからない。今度

は押しとどめられるだろうか。



近況

田中 礼子

定年退職して12年になりました。退職後にはじめた福祉施設の非常勤職員も11年になり、よくぞ続けられたものと思います。

これからは、いよいよ最終ステージに入り何が待っているのか、どんな生活になるのか期待半分、ドキドキ半分です。

近況

永田 紀彦

能勢に畑を借りています。10年にはなったと思いますが、少ししんどくなってきました。先日には玉ネギ、ホーレン草、ニンニクを持って帰りました。長男が生きていた時に植えておいたものです。今年で終わりです。

「友だちのうちはどこ？」

倉田 厚子

イランの映画は初めてでした。1987年作

賑やかな朝の教室。口髭の男性教師が入ってくる。なぜ騒ぐんだ？騒々しい。とさっそくしかられる。教室には男児ばかりだ。3年生くらいか。宿題を出してと言われみんなは机の上にノートを出す。先生は一人一人のノートを点検して回る。ネバツアデはやっていない。何度だ？・・・3回。ネバツアデのノートを破る教師。泣き出すネバツアデ。今度ノー

トに書かなかったら退学にするぞ。隣の席のアハマッドは、帰りがけに転んだネバツアデのズボンを洗ってやる。

家に帰ったアハマッド。母は中庭で赤ん坊を見ながら大きなタライで洗濯をしている。縁台で宿題を始めたがネバツアデのノートを持ち帰ったことに気がつく。どうしよう。返さないとネバツアデが困る。

母に黙ってアハマッドは家を飛び出す。

ネバツアデの家は小高い丘の向こうの隣村。山道を走って行く。古びた土造り石造りの間の路地や階段が続く。牛が歩いている。山羊の集団も通る。

こんにちは。ネバツアデの家は？ 知らんね。体が隠れるほど大量のしばを運ぶ老人。洗濯物を干す女たち。水汲みを手伝う同級生に会う。

あっちの方だったよ。前に階段のある青いドアの家。

ネバツアデと同じズボンを干してある家に来た。

ノートを返しに来たんだよ、ネバツアデ！

出て来た老婆は、ズボンはうちの孫のだよ。

一緒に来て下さい、お願いします。歩けないよ。

道端に老人たちが座っている。道路工事をしていた時の話を始める。イラン人は二度言われないと仕事をしないが、外国人は一度言われたらすぐ仕事をするから給料は二倍だった。だから言われたらすぐ仕事をする子に育てないと。この老人

たちにドア業者が鉄のドアに変えろと迫る。心配ない、大丈夫と受け流す老人たち。ドア業者はロバに乗って去って行く。この人はネバツアデを知ってるかも知れない。ロバは大男を乗せて路地や階段を駆け上がる。追いかけるアハマッド。薄暗くなってきた。ネバツアデの家はまだ分からない。

こんばんは、こんばんは。ネバツアデの家は？

やっと一緒に探してくれる老人に会った。坊やの家の窓は私を作ったんだよ。鉄のドアは一生壊れんそうだ。一生ってそんなに長いもんかね。あの窓もこのドアも40年前に作ったんだ。わしは町というのが全く好きになれんね。人間が故郷と呼べる所じゃないよ。老人の話聞きながら歩く。花をやる。ノートに挟んでおきなさい。

もう少し急いでください。おじいさん、ぼくもつと

急がなきゃ。

犬に吠えられ、辺りはすっかり暗くなっている。

ここから先は一人で行きなさい。神様に守られますように。

アハマッドはどこかの家でうずくまっている。お盆には夕飯が用意されている。

夕飯を。 いらない。食べなさい。 食べたくない。

宿題しなくちゃ。と持ってきたノートに書き始める。

翌日の教室。

アハマッドが来てません。

さっそく宿題点検が始まる。ノートを見て回る教師。ネバツアデはいよいよ困って顔を伏せる。

半分しかやってないな。

昨日畑へ行って・・・畑仕事を父さんと・・・

いいか、君たちの義務はまず勉強だ。その後で家の仕事をしろ。一度や二度は許してやろう。だが三度目は許さない。罰を与えるからな。

その時、ドアをたたく音が。アハマッドが来た！すみません。

なぜ遅れた？

アハマッドの指が汚れている。

座れ。

宿題やってあるからね。

ネバツアデにそっとノートを渡す。

ノートをめくる教師。 よろしい。

そこには昨日の小さな花が挟まれていた。

ただ友だちにノートを届けるだけ

の話ですが、見入ってしまった。アハマッドの一寸な思いに心打たれた映画でした。



家庭菜園 4 年目

大久保 芳人

私には、畑の師匠がいます。82歳のおばあさんです。少しでも畝が傾いたり凸凹していると、直ぐに注意されます。すごい眼力です。

畑仲間、師匠がどんな仕事していたか、最近聞きました。プロゴルフアのキャディです。これからは、師匠に気づかれる前にマルチを張ります。今年、ペピーノに挑戦です。



近況

小宮山 繁

昨夏、働いている障がい者グループホームでコロナのクラスターが起きました。

その時78才の入居者の方が、人工呼吸器を着けなければならぬほどの重症になりました。しかし、入院できず、なんとかグループホームで生命を守り、そのあとリハビリをしながら、徐々にコロナ罹患前の機能を回復しつつありました。

今年に入ってから咳が止まらない、食欲低下、気力低下等が見られ、呼吸状態が悪化して3月末に緊急入院、1か月後に亡くなりました。

戦争中に生まれ、中学卒業後大阪で働き、京都に戻って作業所で働いていました。冗談と仕事が好きな人でした。

近況

三野 真樹子

私は足のしびれがきつくなり、いつ歩けなくなるか心配です。今は買い物に行ったり、写真を撮りに行ったりしています。教育現場も私たちの在職中とはすっかり変わったとききました。具体的なお話を聞ける機会があれば幸いです。

年二回「京都民主文学」を発行しています。投稿していただけばうれしいです。(次は八月末締切)

私の子ども時代と遊び

道本なおみ

私は小学生時代を京都府北部、山あいの小さな田舎町で過しました。昭和30年代の頃です。敗戦から十数年を経て、経済は戦後復興を果たし「もはや戦後ではない」と言われ、

1964年の東京オリンピックを目前にして日本は本格的な高度経済成長期の入口に差し掛かっていました。しかし、まだ社会全体には戦争の記憶が色濃く残っており、担任はよく授業を中断して自分の出征中の体験談を子ども達に話してくれました。耳を澄ませ、ドキドキしながら先生の話に聞き入ったものです。(教科の内容より、脱線斬の方がよく頭に残っているから不思議です) 戦時を経験した親たちは家族を養うのに必死でしたが食べ物や生活物資は豊かではなく、皆が貧しく、生活は質素でした。

通っていた小学校の裏山には雑木林や竹藪が広がり、校舎からは盆地の中を由良川が大きく蛇行して流れているのが見えました。毎年のように台風の大雨で川が溢れるとその盆地は湖と化し、多くの家屋が浸水し、田畑は泥水の底にしみました。収穫されたばかりの稲穂を掛けた稲木が目の前をなすすもなくどんどん流されていく光景を何度も目にしました。テレビで我が町が「山の

中の零メートル地帯」と報道されたのを子ども心によく覚えています。

下校途中、友達と「山?川?どっちにする」と相談し「今日は川へ行こ!」と決めたら玄関に鞆を置くや



いなや網とバケツを持って犬を連れて家を飛び出し、日暮れまで遊び呆けました。当時の大人達は「子どもだけで川へ行ったらあかん」とは言いませんでした。危険な場所はちゃんと子ども社会の中で伝達されていることを知っていたからです。

自然は生きた教材の宝庫でもありました。例えば「アメンボは水の上をスイスイと滑るように歩くけど、石鹼水に浮かべたらどうなる?」仮説を立て河原で実験をします。すばしっこいアメンボを捕まえる難しさと「アメンボは足の先から脂を出して表面張力で浮いている」ということを私は体験で学びました。



春は畔道で土筆や蓬、露などの摘み草をし、夏は小川を堰き止めて水遊び。秋には稲刈りが終わった田んぼでタニシ拾い。それを母が甘辛く煮てくれた佃煮が大好物でした。冬は裏山で手製の櫓や竹スキーに興じました。当時、チヨコレートなどは日常では珍しくイタドリ、野イチゴ、柿や桑の実、アケビなどで空腹を満たしました。昔の子ども達は身近な植物を使って上手に遊びました。竹を削って作ったジャノヒゲ玉の「空気鉄砲」、草花や葉っぱの「人形」、赤まんま(イヌタデ)を赤飯に見立てた「ままごと遊び」が今も鮮やかに蘇ります。

私は今もよく「野外観察会」で小学生と一緒に河川敷へ行きます。オオバコの相撲、カヤツリグサ遊び、オオオナモミのブローチ、クローバーの冠、葉っぱの鉄砲、スイバの10円玉磨き、ツルヨシの縄跳びなどを目の前でやってみせると「すごい！」と尊敬され、子ども達は「楽しそう、教えて」「もっとしたい」と夢中になります。草花遊びには植物の特性が生かされていて、「どんな環境に生えているか?」、「茎や葉っぱ、実の造りは?」、「手触りは?」、「香りは?」などじっくり観察させるチャンスでもあります。ゲームや既成のおもちゃに親しんでいる現代の子ども達ですが、実際に手に触れ、匂いを嗅いで：遊んでみたら「植物で遊ぶのって、おもしろい」と気づきます。体験を通した遊びの中で学ぶことも多く、子ども達をもっと外に連れ出し、「自然は楽しいよ」と伝えたい。そして、私達高齢者も子ども時代に戻って昔懐かしい草花遊びをしてみたいと思います。「子供の頃、こんな遊びをしたよ」と交流し合うのも楽しいと思いませんか。



来たれマイサロンお気軽に

九里昌治・徳江

思いがけず隣家が売りに出され、老後何か楽しく気のおけない場所がつかれないかと考え、購入・改装しました。

一時はお店をともしましたが、もとよりそんな才覚も器量もなく、その道に詳しい方を呼んで、歌ごえ喫茶・フラワールアレンジメント教室・折り紙教室、別室でマージャン・コントラクトブリッジ・囲碁将棋などやっています。

ところがコロナで、歌ごえは休止中、あとはボチボチやっていますが、メンバーが病氣したり、家族の介護があったり、盛況とは言い難い状況です。もし興味のある方がおられましたら、SNS(090-1230-3924)で、まず一報頂けたら幸いです。よろしく願います。

近況

吉川浩一郎・祥子

目に青葉

山ほととぎす

初鰹

(鰹は好きではありませんけど)

今年も元気で今を迎えています。(5/19 記)

雑感

堀江 満智

近頃、私が人生の大半を過ごした「戦後の日本」が変質していくように感じる。

敗戦直後は貧しかったけれど、希望があり、平和や民主主義、人間らしい楽しみを皆で求めていた。高度経済成長期にはひずみもあったけど、今みたいに皆がストレスためて働いて、若い人の将来が心配なんてことはなかった。進んだのは国際化とジェンダー平等と科学か。

「私たちは良い時に死んでいくネ」なんて冗談を言っていないで、少しは前向きに生きようと思いますが・・・。



此の頃

下重 文子

昨年から、一人暮らしの兄がデイサービスを受けるようになり、度々福島の実家に帰っています。その度に泊まる旅館の方に、「兄弟のお世話ができて幸せなことよ。」と言われ、思いを新たにしました。電話では、兄の元気な声を聞いては、ほっとする毎日です。

世界では、多くの命が奪われていて、何とも腹立たしい限りです。

外国人観光客と関わって

松本 朗

私は数年前から英語でガイドや案内所のカウンター業務などの観光ボランティア活動をしています。今年度の活動の中で、私の接した外国人観光客の皆さんの言動から「こんなところがいいなあ。」と私が思ったことをいくつか紹介します。

- (1) 自分の居住地や家族のことを話すのが好き。
- ・携帯電話の中の写真を見せてくれながら、自分の町や家族のおもしろい話をし、私のこと上手に聞いてくれる。自分の居住地のおみやげを頂くこともある。
- (2) 周りの地元の方と楽しく過ごそうとする。
- ・バスや列車の中で高齢者などに席をすぐに譲ろうとされる。
- ・車中などで地元の方に、知っている日本語や簡単な英語で話しかけられる。
- (3) 10代の子どもたちも、さりげなく親切的な行動ができる。

・猛暑の中の「嵐山モンキーパークいわたやま」の途中で私がへばっていると、13歳の男の子と18歳の女の子が水の入ったペットボトルを渡してくれた。

・日中先頭を歩く私の隣で、15歳の女の子がパラソルをかざして日陰を作って同行してくれた。

(4) ガイドの気持ちに伝えようと明るく反応してくれる。

・それぞれの場所で、ガイドの質問やクイズに積極的に答えてくれる。

・私とその旅行者の写真を撮る時、天龍寺では「dragon」、祇王寺では「moss」などと声掛けをして笑顔でカメラの前に立たれる。説明した私も気分よくシャッターを押せた。

・祇園や先斗町で私が京町家とお茶屋と置屋を説明した後、道沿いの家を一軒一軒注意しながら歩かれ、「ここは（京町家）ですね。」などと私に確認された。

(5) 忘れ物が見つかる大喜び。

・案内所のカウンター業務で道案内や情報提供をするとき必ずお礼を言われる。そして、列車内などにパスポートやカード類、携帯電話など大切な物を忘れて案内所へ来られ、それらが発見できると、時には私とハイタッチをするくらいにとっても喜んで頂



ける。ほとんどの忘れ物は発見できるので、「日本は安全な国」だと再確認すると同時に、私も手助けできるとやりがいを感じる。

「観光公害」という言葉があるように、外国人観光客の増加は私たちの日常に弊害もたくさん起こしていると思います。また、一部の外国人観光客の身勝手な言動に嫌な気分になることも多々あります。しかし、私は外国人観光客と関わる際、「こんなところを見習いたいなあ。」と思う気持ちも大事にしながら、ボランティア活動をしていきたいと思っています。

セカンドステージの楽しみ

中泉 千恵子

六十歳ですばっと退職。一年目は、今衰退の一途をたどる町内会で副会長をして思う存分活動。

年明けて、コロナの影が……。役員の慰労会を花の家でと企画しましたが、断念。

この間に同居の娘に子どもが生まれ、孫育てに全力投球。アシスト自転車に乗せて、保育園の送り迎えと、昨年は地域に中泉医院を開業し、新たな地域貢献に取り組んでいます。

友

山口いづみ

大学入学試験の日、トイレでたまたま出会った彼女。入学式の日、彼女を見つけ、お互いに「良かったなあ」と。ピアノが上手で行動派。料理もササツと作ってくれて、とっても美味しい。

ウェアから靴まで貸してくれ、スキーの楽しさを教えてもらった。ゼミも一緒。卒業してからは、それぞれの府県で教員生活。結婚のときも相談されたなあ。

ゼミの仲間で、女子会をしようと声を掛けてくれた。

ホテルでお湯につかったりランチをしたり、和菓子作り体験も計画してくれて・・・楽しかったし嬉しかった。

たまたま女子会の日が私の誕生日に当た

り、みんなにお祝いをしてもらったこともあった。

しばらく連絡がないなあ。

ある日突然、急を要する病気ですぐに手術になっていたと知った。メールをすると

「生かされてます」という返事。

去年の十一月に天に召されてしまった。早すぎる・・・



ご主人は「言われた年月より、ずっと長く頑張った。行きたいところも言ったし、やりたいことは全部やったと思う」と。

まだまだ一緒に女子会やりたかった。

〇〇ちゃんの分までボチボチ頑張るわ、見てて！

近 況

佐藤 寛子

12月に左肩を脱臼しました。気がせいでも体はついて来ないんだと反省しきり。でも骨折や手術では無いし早く治るだろうと軽く考えていました。

3ヶ月経っても痛みは取れないし、左肩を下に出来ないで寝返り打てず睡眠不足。回遊魚みたいにじっと出来ないねと友達に笑われる私が歩いて動くことしか出来ず、ストレス満杯。そのせいかメニエール病で救急搬送される羽目に。踏んだり蹴ったりの今年前半です。

70代の初めにつまづいておくと後10年元気に過ごせるよと周りは慰めてくれますが、歳を自覚してユルユル過ごしなさいという神様の思し召しかなと思ったり・・・

孫の成長を見ていたいという欲もあるので、もう少しこ

の世で元気に過ごせるよう心して生きたいと考えています。

近況

村山 郁子

退職後も数年ハーフや時間講師として働いていましたが、今年より完全に離れ、フリーとなりました。今は自分のやりたいこと、興味のあることに時間を費やしたいと思っています。

今は旧友との再会(ランチ会)や楽しそうな行事・情報を自分なりに探しているところです。コロナに関する規制も弱まり、他人と出会うさまざまな活動が復活してくると思っています。退教支部の活動にも期待しています。

戦後から戦前へ

平田 美佐子

私は1953年、戦後8年生まれです。70歳になる今年は、戦後78年ですが、どうも戦前X年まっしぐらに思えないのです。

その理由の一つは、ずっと過ごしてきた教育現場の変化です。学校が忙しくなっているのは、私が現職の頃からです。

それでも、定年退職するころまでは、教育の自由がありました。今はどうでしょうか。忙しいことよりも、自由で民主的な学校や学級づくりができないことが、教育をある力がはたしているのではないかと思うのです。それがいろいろなところに現れてきています。昨年の「らくさい」に佐々木さんが中学校の学校現場の変化について、書かかれていました。小学校でも同じで、コロナ禍以後も生き生きと子ども達や教職員が過ごせる学校に戻るのには、程遠いのではないかと思う日々です。

ここ10年〜20年の変化です。

例えば服装です。授業参観や家庭訪問、研修や出張などの先生方の服装は、カラスやドブネズミ色の服でないといけなのでしょうか。安全や衛生面の配慮があれば、華やかな服、カラフルな服、おしゃれな服、個性に合った服の方がいいのと思うのは、私だけでしょうか。慌ただしく服を着替えている先生方を見ていつも思っています。

また、今学級通信を出しているクラスは、全市でどれくらいあるのでしょうか。予定表を載せたお便りは毎週きちんと出ています。でも、担任の思い考え、クラスの出来事や子ども達の様子を知ることがあまりできていないように思います。昨年度、支援員をしていた学校で養護の先生が「保健だより」

に「子育てコラム」という記事を載せられていたのが、唯一先生個人の考えが知ることのできるものでした。

私も退職するまで学級通信を出していましたが、最後の数年は、子どもの名前もフルネームで載せることはできなくなりましたし、校長の意味の分からないクレームがついたこともあります。個人情報を守ることは大切だし、管理職によるチェックで、改善されたこともあります。でも、学級通信を出しにくくなることは、どこかに表現の自由が失われていると思います。

教科書も変わりました。「かわいそうなぞう」や「一つの花」「石うすの歌」「川とノリオ」などたくさんあった戦争教材も今や「ちいちゃんのかげおくり」だけです。文学作品を心情に寄り添って深く読み深めることもなく、関連教材を使って発展させることもできません。ウクライナの戦争が起こって、その現状は、報道されているのによその国のこととしてしか、捉えられていないようです。78年前に日本で終わったあの戦争もよそ事です。

職員室の様子も変わりました。パソコンに向かうために戻ってくる人はいても、子どもの話やクラスのことを話すことあまりなく、隣のクラスのことともよく知らないことがあります。先生同士の会話がなく、困った時は、直接管理職相談するというのが普通のパターンになっています。子どもも教職

員も仲間と共に助け合い、学び合ったのは、はるか昔のことのようです。職場の他にも民間教育、組合活動など教育力を高める場がいろいろありました。

それに代わって、今はネットがその役割を果たしているのでしょうか。しかし、学校は人の集まりです。生身の人間相手の職場です。それだけでは解決しないことが多いのではないかと思います。

子ども達に伝えたいこと、伝えなければならない大切なことはたくさんあります。その一つが戦争です。戦争の恐ろしさ、悲惨さを正しく伝え、戦争を起こさないようにすることが、教師の大切な仕事だと思います。戦争体験者も減り、戦争を知らないで過ごすことが当たり前になっています。戦前にならないために今私にできることは何かと問いかけながら子どもや若い人々と接するようになっています。

そこでお勧めしたいのが次の映画や本です。機会があればぜひどうぞ。3本あげておきます。

*愛国と教育・・・見られた方も多いと思いますが、監督の斎賀尚代さんは穏やかな方で、淡々と時代の流れと政治の動き、その結果として教育現場ではどういうことが起こっているかを描き出されています。

*妖怪の孫・・・安倍元首相のルーツと政治的立場など、なぜ妖怪となったかがよくわかります。また、この映画が

一般的な映画館で上映されていたことにも、ちょっと安心しました

*放送不可能・・・小泉純一郎と田原総一朗が原筈について対談しています。

これらを見てみると、まだもう少しは大丈夫かなと思えることもあります。5年後にはこんなことが言えるかなです。

最後に「旭丘中学校事件からの伝言」・・・むかし生徒が主人公の学校があった・・・という山本正行さんの奥さんである優子さんが出された本です。旭丘中学の事件をあらためて知ることができました。読みながら時代の流れを感じている日々です。



嬉しい春(近況)

中川 壽弘

桜の花を楽しんだ後で、嬉しい便りが二つ続きました。一つ目は、卒業時の(政治家になる!)という夢をかなえ、市会議員に当選したという知らせをくれた男性から。二つ目は、9年ぶりに手紙をくれ、春から薬剤師になるという女性からのもの。

たくさん子どもたちに接し、自分の将来と向き合い、頑張っている姿に、今でも元気をもらっています。コロナによって分断された人間関係が、元にもどるよう、私も努力したいです。

やっとなー!

夏川 久子

やっとなーマスク生活、引きこもり生活から抜け出せそうな気配です。この三年間で家でのランチ会の気楽さや、テイクアウト弁当のおいしさや、ウォーキングの必要性などいろいろ考えさせられましたが、それでもやっとなー、マスクなしで対面で友人と話をしたり、旅行したりする楽しみはまた別格です。からうれしいです。この五月末でいったん仕事をやめることにしたので、六月からは毎日日曜日生活です。しばらく気ままな日を過ごしてのんびりゆっくりしたいと思います。そうして、またご縁がつながれば働いたりもできたらなと思っています。ミニ行事も楽しみにしています。

川 柳

辻 貞子

閉じこもり ウイルスよりも認知症

検索はスマホにまかせ 辞書は棚
医者通い増えて気がつく 我歳を

78 年目の夏に思う

堀 信子

「教え子を再び戦場に送らない」この言葉の意味すること
をこの夏しっかりと考えたい。この言葉は、朝鮮戦争の状況
下、1952年1月30日 高知県教組「るねさんす」44号
に掲載された竹本源治さんの「戦死せる教え児よ」という詩
がもたくなって生まれたと聞いています。戦争へと駆り立て
た戦前の教育の過ちを、懺悔（ざんげ）し、「繰り返し返さぬぞ絶
対に！」と力強く結ばれた言葉に、戦後教育の原点を感じま
す。37年間の教師生活、そして現在も、やはり、私自身の
「生きる原点」は「教え子を再び戦場に送らない」という思
いです。

教育基本法を変え、憲法第9条を踏みにじり、安保法制を
成立させた安倍政権。それに輪をかけて軍拡路線を突き進む
歴代の自公政権。岸田首相は、ヒロシマ出身でありながら、
被爆者の思いを踏みにじって、核抑止論の立場で「広島ビジ
ョン」を宣言しました。また、敵基地攻撃能力保有や軍事費
2倍化。5年間で43兆円の大軍拡の財源を確保するための

「軍拡財源法」、軍事大企業を支援する「軍需産業支援法」、
原発を再び推進する原発回帰等々、日本の政治を大転換する
政策を次々と打ち出し、まともな説明や議論をしないままに、
自民・公明・維新・国民民主、の4党で、数々の国民生活を
苦しめる悪法を強行してきました。こんなやり方は間違つて
いると思いませんか。

2017年7月7日、国連で「核兵器禁止条約」が採択さ
れました。そして2021年1月22日から発効しています。
世界の流れは「核兵器禁止」であり、「核兵器廃絶」です。「攻
められたら、どうするか」を考える前に、「攻められないよ
うにするには、どうするか」を考えるのが政治の責任だと思
います。沖縄県議会は国への意見書として、「沖縄を再び戦場
にしないよう日本政府に対し対話と外交による平和構築の
積極的な取組を求める意見書」を「可決」しています。19
31年から始まった「15年戦争」で唯一の地上戦が繰り返し
げられた沖縄だからこそ「対話と外交」努力を国へ求めるこ
とができたのだと思います。京都市議会でも、3月22日に、
国への意見書として「憲法第9条をいかした平和外交を国に
求める陳情」が出されていたことから提案しましたが、残念
ながら採択されませんでした。

一人でも多くの人と手を携え、二度と「戦禍」に巻き込まれることのないよう「平和のための取組」を進めなければと
考えています。

「戦死せる教え兒よ」

竹本源治

逝（ゆ）いて還（かえ）らぬ教え兒よ

私の手は血まみれだ！

君を縊（くび）つたその綱の

端（はし）を私も持っていた

しかも人の子の師の名において

嗚呼（ああ）！

「お互いにだまされていた」の言訳が

なんできよう

慚愧（ざんき） 悔恨

懺悔（ざんげ）を重ねても

それがなんの償いになろう

逝った君はもう還らない

今ぞ私は汚濁の手をすすぎ

涙をはらって君の墓標に誓う

「繰り返さぬぞ絶対に！」

近況

中村 弘子

昨年6月乳がんが見つかり7月府立で手術。幸い発見が早かったので手術はうまくいきましたが、その後あちこちに転移の疑いがあり、ずっと検査、検査。コロナの心配もありどこにも出かけず、誰とも会わずの毎日。

やっと年が明けてカーブスでの体操だけ再開。でも首のガンだけは当たりで、春には手術する予定だったので、年のせいか進行が遅く、秋まで延期になりました。合わせて生活も元にもどして良いと言われ、やっといろんなことができようになりました。

元気だけがとりえの私ガンになるなんていろいろな思い悩みましたが、今は、秋まで少しでもいろんなことを元気にやっていきたいと思っています。又、どうぞよろしくお願ひします。

コロナ禍を振り返る

長谷川 富美子

五月八日やっと新型コロナウイルスによる制限が撤廃された。

三年前、マスクがない、ワクチンがない、と大騒ぎをした。通っているスポーツジムでも壁に「黙入浴」、「黙更衣」などという張り紙がベタベタ貼ってあった。風呂でもマスクをして入っている人がいた。

自粛と言って旅行やイベントも中止した。子どもたちの集団登校も見受けられなくなった。学校では可愛そうに年中マस्कしての授業。歌うな！大声を出さな！大勢で遊ぶな！給食は黙って食べろ！多くの制限があったのによく我慢したと思う。母の場合もそうだったが入院先に自由に見舞いにも行けず、生前多くの人との付き合いがあったのに葬儀も七人八人と寂しいものだった。

私も昨年八月コロナに感染した。味覚障害の後遺症が何か月も続いた。甘い、辛い、苦い、酸っぱいはわかるのだが鯛と鯖、緑茶とほうじ茶、オレンジジュースとリンゴジュースなど食品の微妙な味の違いが全く分からなかった。

今、薬局やスーパーでは箱入りのマスクが悲しげに並んでいる。先の短い私の人生ではこの三年の時の損失は大きかった。

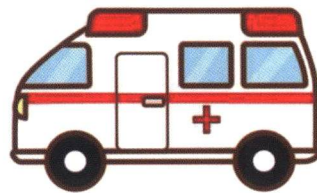


近況

若い時から運動が好きで体育の教師 なかでもバレエ、創作ダンス、社交ダンスと楽しみ、勉強と頑張ってきました。その上、食べるのも、作るのも好きで喜んでいただけれることをするのも好きで毎日忙しくしている。気が付いたら92歳

と2カ月の老人になってしまいました。・・・が、今のところ持病もなく、お薬も飲んでいません。でも関節が痛くなつて、人工関節置換術を右股関節、両肘と三カ所も、機械かな！の関節です。

リハビリ頑張っていて歪んでいた身体も、まあ まっすぐ近くみよくなつたと言われていたのにこどもの様に走って、道路に埋められている目の悪い方のボタンにつまずき、バスに乗れると走ったら身体が空中に左斜めにとんで 地面とコンと音がして大出血。救急車のお世話になって13日間。脚、頭部。縫合手術入院しました。



岡 成子

近況

あちこちに舞い散る落葉 黄に染まり

中村 隆

更には褐色 秋日の 美しき
雲晴れし 窓辺みており 送りこし

孫方は同じ画数この度は 百花と名付け 愛の結晶
教え子は担任 我の生きる間を 一まわり下の仲間と集う
クラス会 カラオケ話土産もち 美しき料亭

御馳走たまう

足悪い彼は度々尋ね来し 手つなぎ送る駅の近まで
母なくし 悲しき折には担任が 女の先生 ああ嬉しやと
生きる知恵 我慢の知恵を学ぶとき

如何なる様も確たり 月の夜

「かわいいひ孫と同級生」

西田 光司

かわいいひ孫が近くにいますので
ちよこちよこ顔を見せてくれます。
日々成長してかわいくて、かわいく
てたまりません。私（オーちゃん）
と同級生と言っています。90 歳ちが



いですがね。このひ孫が一人で遊びに来てくれるまで がんばって、がんばって生きていたいです。かわいい孫の子どもですからかわいさがまたちがいます。今は八か月目ですが何でも口に入れてニコニコ顔。いくら見てもかわいいばかり。たいへん楽しみです。

後期高齢者保険の見直しを糾す

佐々 満郎

取り易いところから、それも地方統一選挙を考慮して2023年6月頃、高齢者保険を見直す事が政府で検討する記事が目についた。ごく一部の対象者をターゲットに2024年度の予算編成までに点検し是正する案が目につく。

昨年11月に突然役所から10、11月分を11月末までに44000円と端数、そして後の4枚は12月から3月まで、毎月22000円納付書通知書が届く。限られた層をターゲットにしたものというが、昨今、昨年度税制改正に対象を拡大するとの記事にびっくり。保険金増額に留まらず医療費負担の1割を2割に、現に小生は負担割が倍になったのである。（連動するのである）しかも、高齢になればなるほど医療費は増えるのである。

長寿国も日本の施策の真髄の改正である。防衛費は文句なしの増額する現実と老人健康保険がこのままで良いのだろうか。

追記…小生は既に2023年度の保険料は完納しているのに上積みとなったのです。



近況

藤本
てる子

初曙 ようよう白く 春燈

七草粥 湯気ほんのりと 春の香を

斑消えの 雪間の薺 母の摘む

早朝や 凍屋根続き 灯三つ

イスラエル 砂漠の大地に アネモネ萌え

微風に ジュース空き缶 風車

巻き貝の 鉢にサボテン 育ちけり

街小道 ラッパ水仙 群れて咲く

大空に 連翹の花 枝拡げ

菜の花畑 見つつバイクを走らせり

止まれまほし 青筋揚羽 目で追いぬ

草萌へし 牛放されて 草千里

強風に 花乱舞せり 兎手を広げ

野の草の 春光浴びて 花開き

アスパラと蕨を手折り 友の庭

馬酔木盆栽展 紅もあるを知り

茶畑に 月の雫の きらめきぬ

日盛りに 百日紅 赤あかと燃ゆ

通天閣 新緑海原 風薫る

公園の木々 ゆれゆれて 青嵐

雪頻り 嵯峨野めぐりや 赤毛布

天龍寺 からくれないに 紅葉して

銀杏を 盛りに祭りの 供物とし

静寂の 竹林の道 雅道

皮脱ぐ竹の すくすくと伸び

「寂聴さん 逝く」

女源氏 サインもろたり デパートで

寂庵訪ね 説法流る

浮舟の古跡碑 静か 三室戸寺

王朝文学 舞台を宇治に

宇治十帖 スタンプラリー 秋日和

溪谷の 吊橋ゆすり 十津の秋

ちよつと待て

甲斐田 清美

この頃気になること。

それは「お天気予報」。今日のお天気のお知らせの中で、降雨%、花粉予想、昨日との温度差ととても丁寧である。助かる。しかしこれでは終わらない。まだまだ丁寧なのである。「お洗濯ものは午前中に」「外干しされるときは花粉が多いので取り込むときは花粉を落としてから」しまいいには「今日お帰りの遅くなる人は折り畳み傘を」いやその上に「夜は冷えますので何か羽織るものがある方が」もつと丁寧な人は「脱ぎ着できる服装が」いやもつと丁寧な局やアナウンサー（気象予報士の方か）が実際に服を見せて「このような服なら脱ぐのも便利です」に至っては「もうほつといてくれ!!」とテレビに毒づく。

どこまで「親切」なの? いやこれはもう「親切」ではなく、きつともつと違うねらいがあるのでは! はっはっん。「あなたたち日本国民は馬鹿なんだからこれくらいわかりやすく言わないと理解できないでしょ。」「日本国民はもう何も考えなくていいのだ。私たちがちゃんと教えてあげるからその通りやれば間違いないし。」というそんな国家機密のもとに送り込まれた秘密のお天気予報隊員(?)なのでは……。

いや、まてよ。お天気予報だけでなくこの頃のテレビ番組もおかしいぞ。情報番組にバラエティーのなんと多いこと。「とっても安くしてお値打ち品がいっぱい。お肉が2キロ入ってこの値段。」「今年の流行のスタイル・色です」。……お肉2キロも買わないし、だれにとつての流行なんだ。そもそも流行の服・色は私に似合うのか? 誰を対象にしているの? これらはまさしく「お年寄りやテレビを見ている人たちは何も悩むことなく楽しんで、ははと笑って過ごしたいんだ。」というステレオタイプの視聴者感。視聴者も国民も馬鹿にされたもんだと腹が立ってしょうがない。

人間は失敗するから次があるんだ。失敗しない人生なんて何にも面白くない。（話のネタもない人なんて何も面白くないじゃないか）



「部屋の窓を開けたままにして仕事から帰ってきたらタタミがびちゃびちゃだった。」「九州は常夏のように温かいだろうと勝手にイメージし、春休みにTシャツをいっぱい持って旅行したら雪がちらついていて震え上がった。」とか失敗してもそれでいいじゃないか。だからそれからは出かける前にはいくら風を通したくても窓は閉めていくようにするし、旅行に行くときは万全の準備もするようになった。それでいいじゃないか。

お天気のお姉さん（これは失礼な言い方）私たちに考え、悩むゆとりを残しておいてください。

昔はあたらないのが「天気予報」。「今日は予報が当たったなあ。」という方がまれだった。それが、今はスマホで時間ごとに雲の流れも出るのではほぼ正確に一般人の私たちにもお天気の行方がわかる。

なのでテレビではもっと詳しいことを、私たちが知りたいことをという老婆心なのかもしれないが、やはりそれくらい自分で考えないと。

「制服がある方が毎日服装を考えないでいいから楽」という若者を生み出さないためにも。はやった服装を誰もが制服のように着る大人たちにならないように私は「自分の好きな服・髪型」にこだわり、自分の意見が言えるおばあさんになろうと思う。

近況雑記

コロナ禍のトンネルは抜けたのかな？

佐々木 俊郎

コロナ禍も三年半が過ぎ、五月には感染症法上の分類が五類になって、日本も日常を取り戻したかのようです。もちろん、

ん、オミクロン株が主流になって重症化しにくくなったといっても、未だ流行は続いているし、ただ感染者数をかつたのようには毎日の実数で発表しなくなったせいで「日常に戻った」と勘違いさせられているだけかもしれません。三密対策、常時マスク、アクリル板等、いつまで神経質に感染対策せなあかんのや！濃厚接触者だからといって一週間も休んでいたら仕事が回らへん！気をつけなあかんのは高齢者だけやろ！スペイン風邪も三年ほどで流行も下火になったというのに、コロナはまだ続くの？いい加減疲れてきたわ！などという世の多くの「コロナ禍疲れのため息」を、「聞く力」で聞いたふりをし、G7の首脳と欧米のメディアの前で日本人の大多数がマスクをしている姿を見せなくなかった某首相の決断があつて、コロナはインフルエンザ並みに位置づけられることになりました。

ともかく、石の上にも三年、桃栗三年、朝の来ない夜はない、止まない雨はない、冬来りなば春遠からじ、出口のないトンネルはないと心の内で唱えて過ごしてきた三年間、私たちは十分辛抱したと言えるのかもしれませんが。この間にワクチン接種が進むと同時に、身の回りに感染者も多くなつてより身近な病気になり、文字どおりウイズコロナ、コロナと共存せざるをえない日常への馴れが進んだように思います。私たち夫婦も、二〇二二年度の第何波だったか忘れたけれど、

波にのまれて感染しました。二人ともコロナ自体は軽く済んだのですが、妻の方は二ヶ月近く後遺症に苦しみました。私の場合は、五回目のワクチン接種一週間後に抗原検査が陽性になってガックリしましたが、ハイブリッド免疫を獲得できたと前向きにとらえました。馴染みの感染症になりつつあるとは言っても、症状は人それぞれで、基礎疾患のある人、高齢者にとって要注意であることは変わりません。

では、ようやく三年前の世界が、日常生活に戻ってきたのでしょうか。確かに私がウォーキングで歩く嵯峨嵐山付近には、多くの観光客が戻ってきています。五月の平日、混雑する渡月橋を渡っている観光客の七割は外国人客、二〜三割が修学旅行生でした。またJR嵯峨野線は、コロナ禍で車両を

感染症拡大防止に
ご協力ください



間引いたままなのか常に満員の混雑ぶりで嫌になるし、京都駅付近の人出を見るとまさにオーバートーリズムの再来です。グループでの宴会も普通に開かれるようになり、私たち高齢者でさえ、ミニ同窓会やらなにやら飲む機会が増えてきました。先日は、「花のいえ」で退職互助会支部の総会懇親会が三年ぶりに開かれ、私たちも初めて出席し、食事もし

ました。(ただし、酒類は出ませんでした。高齢者の集まりであつたこと、まだコロナ感染の危険はなくなっていないことを考えれば賢明なそして苦渋の判断であつたと思います。)スポーツ観戦での声援の解禁や葵祭・嵯峨祭など祭・行事も復活しました。けれども、台風一過の青空を臨むような気分にはなかなれません。自分自身が高齢者だからでしょうか、おそろおそろとまではいなくても、ボチボチと平常に戻ろうか、という感じです。ひょっとしてこの三年間の間に、普通の日常生活の感覚を忘れてしまったのかもしれませんが。

そして、実は世の中も、トンネルを抜けて明るい世界が広がっているというわけではないような気がします。三年前「コロナ禍はウイルスとの戦争だ」と言ったトランプという政治家がいましたが、この三年間の間に本当に血が流れる戦争、ロシアによるウクライナ侵略戦争が始まってしまいました。二〇二三年七月現在、未だ終結の見通しも立っていません。また、それにかこつけて、北朝鮮の脅威や、「台湾有事」による中国の脅威を煽って、日本を米国の下で戦争をする国にしようとする企てが進んでいます。「新しい戦前」とはタモリの言葉ですが、戦後日本が保持してきた「平和への歯止め」が非常に危うくなってきた状況だと感じます。そして、コロナ禍の中で顕在化してきた世代間対立の下では、ひょっとしてこのように感じているのは高齢者だけかも知れない

と思うと、どこか焦りにも似た気持ちが生まれ、若い世代の未来に新たなトンネルが待ち受けているのではと心配になります。他にも、今思いつくだけでも、ひたすら上がり続ける物価、政治家との癒着が解決されない旧統一教会問題、LGBT差別発言等の人権侵害、東京五輪組織汚職、解決されない教員の過重労働問題など……。これまで放置されていた日本社会の膿のようなものが我々の住む社会を



覆い、子どもたちの未来を狭めているのではないかとも思います。コロナ禍の三年間は、私たち高齢者に健康の大切さ、生き続けることの価値をより自覚させてくれましたが、残念ですが加齢・老化の進行も三年分は（それ以上？）着実に進みました。三年前のことが、今や遠い過去のことのように思えますが、それでも人間は前に進まなければなりません。時間は常に一方通行ですから。先日、今年度の中学生の課題図書「スクラッチ」という本を読んで心が少し軽くなりました。コロナ禍で何もかも制限された生活を送らざるを得なかつ

た中学三年生の物語です。題名の「スクラッチ」とは、真っ黒な画面を削って絵を描く技法のことです。部活の最後の大会やコンクール・展覧会が中止になり、心の拠り所、はけ口をどこにも見いだせないバレエ部、美術部の男女四人の仲間たち。彼ら彼女らは、真っ黒に塗られたキャンパスのように光の見えない生活の中で、何とか自分を、日常を見失わないように「明るく」すごそうとします。介護施設のボランティアをして、施設にいる祖母と窓越しでも対面できたことに心動かされる女の子や、仲間の姿に影響を受けて自問自答を繰り返した末「スクラッチ」という技法によって出展する絵を完成させた男の子、そして、その絵を見て、過去の災禍を引きずっていた心を融解させた母親と家族。暗くながちなコロナ禍であっても大人が思うよりも明るく過ごす中三生の様子が生き生きと描かれます。制限の多い日常の中でも、仲間と関わり自分自身を見詰める中で、彼らはそれぞれが変化・成長していることに気づき、ついに一条の光、つまり、本当の自分、素の自分を活かす進路を見いだしていきます。トンネルの向こうに明るい世界を見いだしたのです。

夏休みに、この課題図書を読んだ中学生は、どんな読書感想文を書くだろうかと気になります。もちろん、生成AIによるものではない、自分の生活体験に根ざして、自力で書き上げた感想文です。

この十一年を振り返って

甲斐田 健一郎

さて、今年も『帳尻あわせ』の季節がやってまいりました。

ツラツラとみなさんからいただいた原稿を並べ、大体その文章に添っているだろうイラストを挿入していったら28×31＝868（字）でなんか一文章作れ！という結論に達しました。原稿用紙2枚と68字ですか…頑張ります！

この11年間の役員生活の中で9年間は「らくさい」編集に携わったことになります。

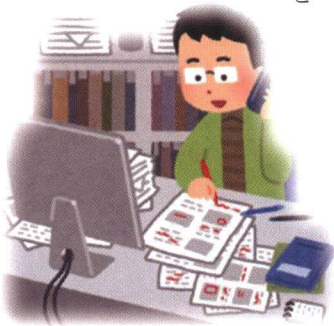
その間やったことと言えば、大きくは①各支部が本部に渡していた予備30部の会誌を2部に減らしてもらった。②27全支部長に配っていた会誌をなしにし、その代わり各支部にはPDFdataをDVDorCDに焼き付け配布をすることにした。③せっかく退職互助部は月1回機関誌を発行・郵送しているのだから、その手段を利用して各支部の「支部便り」・「会誌」を封入してもらうこと（退職互助部のスケールメリットを利用しない手はない…実際初めて利用させてもらった時、その価格を聞いてのけぞりました、2円ですよ、2円！1枚ものでも60ページ建ての会誌でも）27支部のうち大半は右京支部より小さい支部です。そういう支部にとってはこの会誌・支部便りなどを機関誌に同封してもらえないことは限らないメリットがあるのではないのでしょうか？右京支部

的には④印刷はほぼ通販業者に依頼する（ほぼ紙代と同等で印刷できます）でもここまで持つて行くにはかなりの苦労がありました。全支部長会議で実際にPDF化したCDを配布し、そのCDをプロジェクターで写して「こんなふうに見えるよ」と提示したり、しかも全くその際配布したCDも使ったプロジェクターも費用が出なかったし…

この会誌をご覧になった方は、今年逝去された方の一覧をご覧になって「今年は多いなあ」と感じられた方が多いでしょう。実を言うと、退職者が全て退職互助へ入会するわけでもないのが単純に比較することはできませんが、ここ3年ほど新入部員の数と逝去者の数が拮抗してきていて、本当に日本は「人口オオナス」の時代へ入り始めているんだなあ、と実感します。

公私とも「ダウンサイズ化」を目指していかないといけないと感じています。生きづらい世の中ですけど、みなさんががんばって生き抜きましょう！

…とここまで書いたところで、諸般の事情により、ここからさらに最後まで埋めざるを得なくなりました。実はこの文章も、2度目の文章です！



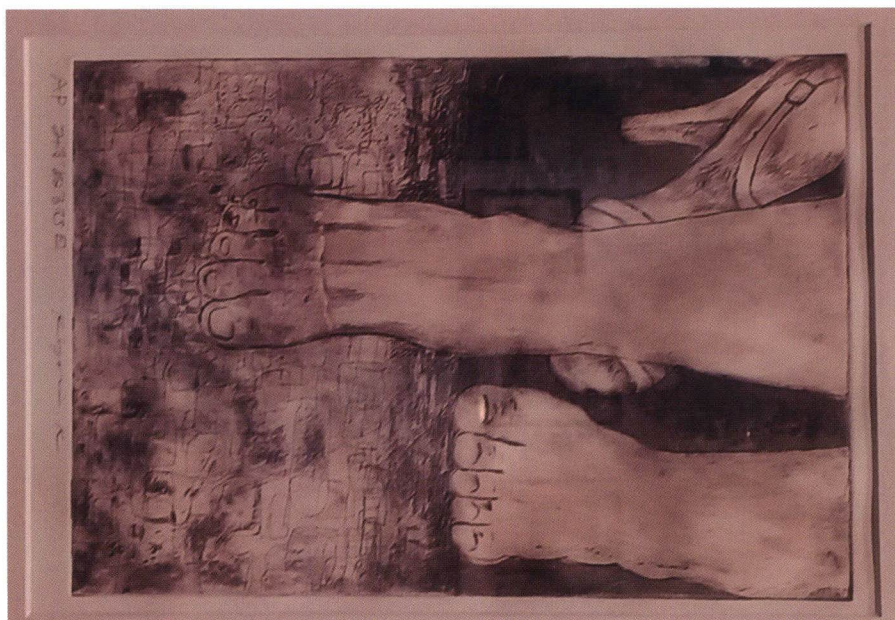
水彩画

川上善雄



銅版画

甲斐田 清美



二〇二二年度支部ミニ行事

「宇多野・鳴滝散策ツアー」

～宇多野から鳴滝へ～

(1) 日程 十二月八日

(2) 行程 ①田辺家②了徳寺③鳴滝④尾形乾山窯跡⑥
福王子神社⑦円融天皇村上陵⑧光孝天皇陵⑨仁和寺

(3) 参加人数 二〇人

(4) 報告

講師の田井茂実さん手作りの説明付きの地図でガイドブックには載っていない地域の名所の説明を聞きながら鳴滝・宇多野を散策しました。



「鳴滝」は国道162号線周山街道の脇にあり、家と家との間から見えます。水量が多く音も大きくてびっくりし



ます。対岸はチャートの褶曲が美しい壁になっています。海で積もった放散虫の化石からできているそうです。

田辺家を過ぎ「了徳寺」はちょうど次の日から行われる大根炊きの準備の真っ最中でした。坂を上ったところに「尾形乾山窯跡」がありました。

「福王子神社」には横140cm高さ50cm厚み5cmの鳴滝砥石があり宮司の村田氏よりそのお話を聞きました。大きくてピカピカに磨かれた砥石に圧倒されました。

「円融天皇村上陵」「光孝天皇陵」を巡り、最後に福王子神社とも繋がりが深い仁和寺を廻り解散しました。

こんな近くに本当にたくさんの歴史が……。やはり古都、京都ですね。是非巡ってみて下さい。(記 山口いづみ)



《編集後記》

▽毎回楽しく読ませていただいています。この夏は本当に厳しい暑さでしたが、熱いお茶で何とか乗り切りました。

▽聞いたことはすぐ忘れる。見たことは少し覚えていて。体験したことは一生忘れない」これからは、自分の体験を「らくさい」を通して周りに伝えたい。

▽今年度も「らくさい」ができた良かったです。高齢の暮らしの充実のために役に立てられたらうれしいです。

▽編集作業に初参加、原稿を精読してみなさんの近況にしみじみと思いを感じました。

▽日常会えなくても「らくさい」を読むと会えます。なつかしい人々に。ぜひ読んでください。

▽コロナはもう大丈夫と言わなければなりませんが、本当に流行っていないのでしょうか？アンテナ張って過ごしましょう。

▽それにしても今年の猛暑には身も心も参りました。「地球の温暖化は終わり沸騰化の時代」に入ったとか。

毎日、花壇の水やりに追われた夏でした。

▽少ししか力になっていませんが、編集に関わるこの時間は私にとって貴重です。共同で取り組んだ日々を思い出します。

▽岸田首相に一言

外交と称しながら物見遊山で外遊しまくり、われわれの血税をバラマキ、

逆に国民に対しては声をまともに聞こうとせず、わけのわからない戯言だけを唱え、また、政治能力も持ち合わせいない財務省のイヌ、米国のボチである政権はさっさと退陣せよ！

▽毎年8月になるとNHKの戦争特番を見る。いかに戦争が無益で市井の人々を苦しめるものであるか。改めて「新しい戦前」と言われる今を思う。

「らくさい」三十九号編集委員会
編集委員 生石 文代

甲斐田 健一郎

小村和加子

佐藤 寛子

高間 菊代

長谷川 富美子

平田 美佐子

松本 朗

道本 なおみ

山口 いづみ

らくさい三十九号 非売品

二〇二三年 十月十五日

退教互右京支部編集委員会編集
京都府教職員互助組合

退職互助部右京支部発行

印刷所 .. プリントバック

電話 : 0120-652-125

DAC



rakusai

No.39
rakusai

No.39
2022